



 klaytn x  Finschia

PROJECT DRAGON

プロジェクト・ドラゴン

辰年 1月

日本語(Japanese)

IMPORTANT NOTICE

- 本資料は、クレイトン財団（Klaytn Foundation）とフィンシア財団（Finschia Foundation）がガバナンスプロポーザルのために共同で作成しました。
- 資料の計画は、クレイトン・ガバナンス・カウンシル（Klaytn Governance Council）とフィンシア・ガバナンス（Finschia Governance）が、本プロジェクトのプロポーザル（KGP-25、FGP-23）に対するオンチェーン投票を経て承認された後に確定される計画です。詳しくは各プロポーザルをご覧ください。
- 資料の計画は長期計画の暫定案であり、具体的な内容は将来の市場環境、規制環境、各ブロックチェーンの事情によって変更される可能性があります。
- 資料の計画は、まだADGM（Abu Dhabi Global Market）やその他規制機関の検討前です。プロジェクトの情報は完成形になっていない現状のもので、規制の変更、当局の要望や指示、進化する常業的な要求事項または市場条件に限らない多様な要因で変更される可能性があります。
- プロジェクトは、機密管理のために両財団の必要最小人数のみ参加する形で上位戦略を設計していて、各ブロックチェーンのエコシステム参加者およびパートナー企業と事前共有されていません。従って、今後実際の具体的なロードマップには変更の可能性があります、エコシステム統合時に各参加者が参加するかどうかは、個々の同意の後に確定されます。
- 資料の計画は、フィンシア財団とクレイトン財団が各ブロックチェーンと財団の現状について合理的に把握したという事実に基づいて確立されています。今後、各財団が把握できなかった事実や前提条件の重大な変動があると判断された場合、計画が変更されることがあります。本件の計画前に発生した各ブロックチェーンの過去の運営内容が本計画または実行結果に重大な影響を及ぼす場合については、各ブロックチェーンが責任を負います。
- フィンシア財団とクレイトン財団は、証券を含む既存の資本市場の商品を扱いません。この資料の計画は、クレイ（KLAY）およびフィンシア（FNSA）の暗号資産の法的性質または権利の変更を意味することではありません。各暗号資産の完全免責事項については、各ホワイトペーパーを参照してください。
- 当社は、いかなる目的においても本資料に含まれる情報の完全性、正確性、信頼性、適合性、または利用可能性について、明示的または黙示的な表明または保証を行いません。
- 本資料のオリジナル原文は英語版で、他の言語はあくまでも参考のために作成されています。正確な内容を確認するには、英語の資料を御確認ください。



KLAYTN PROPOSAL [KGP-25] >



FINSCHIA PROPOSAL [FGP-23] >

[Klaytn Official Site >](#) | [Klaytn Whitepaper >](#)

[Finschia Official Site >](#) | [Finschia Whitepaper >](#)

概要

アジアNo.1ブロックチェーン構築のため、クレイトンとフィンシアが統合メインネットを構築します。



アジア No.1インフラ資産

メインネット・インフラ活性度アジア1位

累積\$376B取引高、\$1B TVL達成記録

- EVMベースの**5年+**の技術資産
- 既存のメインネット/プロダクト・エコシステム
 - ガバナンス: **30+**
 - DApp&サービス*: **230+**
 - ウォレット・ユーザー: **29M+**
- トークン時価総額: **USD 673M+**
- Web3コミュニティ: **240K+**
- LINE連携インフラとプロダクト

Initiated by **Kakao** ***

プロジェクト・ドラゴン

新しい統合メインネットで アジアNo.1のブロックチェーンを構築

2.5億人のウォレット接点ベースのエコシステム****

トークン・バーン中心の強力なトークノミクス

新しいネットワークと技術の互換性

新しいガバナンスと分散化



アジアNo.1の製品資産

Web3プロダクト分野アジア1位

アジア最大規模のWeb3事業投資(\$140M)*

- Cosmosベースの**5年+**の技術資産
- 既存のメインネット/プロダクト・エコシステム
 - ガバナンス: **15+**
 - DApp&サービス*: **190+**
 - ウォレット・ユーザー: **5.6M+**
- トークン時価総額: **USD 213M**
- Web3コミュニティ: **170K+**
- LINE連携インフラとプロダクト

Initiated by **LINE** ***

* フィンシアベースでWeb3プロダクト事業を展開するLINE NEXTが、2023年に外部から誘致した投資金額の数値です。

** クレイTONとフィンシアのメインネットベースでリリースされた、またはリリースが確定したdAppとサービスの数を含む数値です。

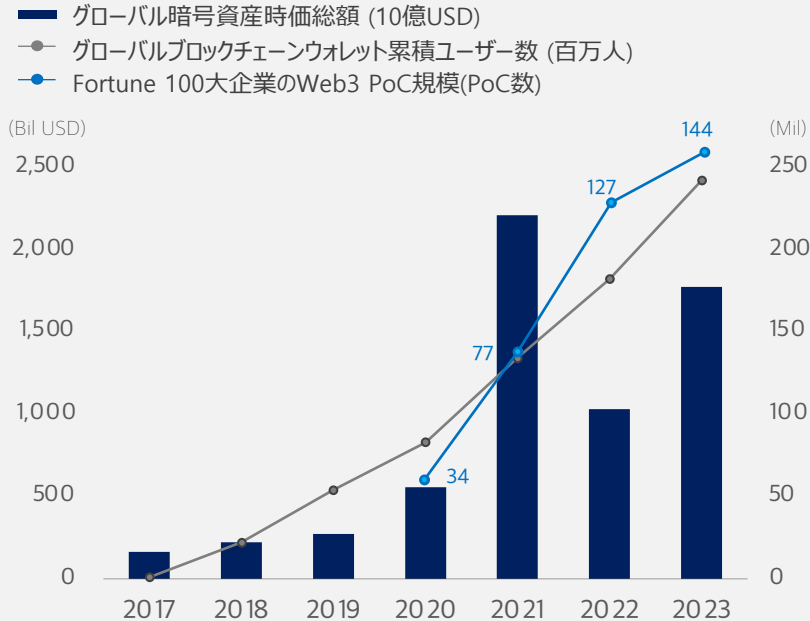
*** クレイTONとフィンシアは、それぞれKakaoの初期ブロックチェーン子会社であるKrust Universe Pte. Ltd.とLINEの初期ブロックチェーン子会社であるLINE Tech Plus Pte. Ltd.からローンチしました。現在はクレイトン、フィンシアともパブリックチェーンとして各ブロックチェーンのガバナンスが意思決定権限を持っています。

**** ウォレットユーザー接点は、2つのメインネットの初期開発会社であるKakaoとLINEのアジア主要国内ユーザー数(MAU)を合計した数値です。

背景

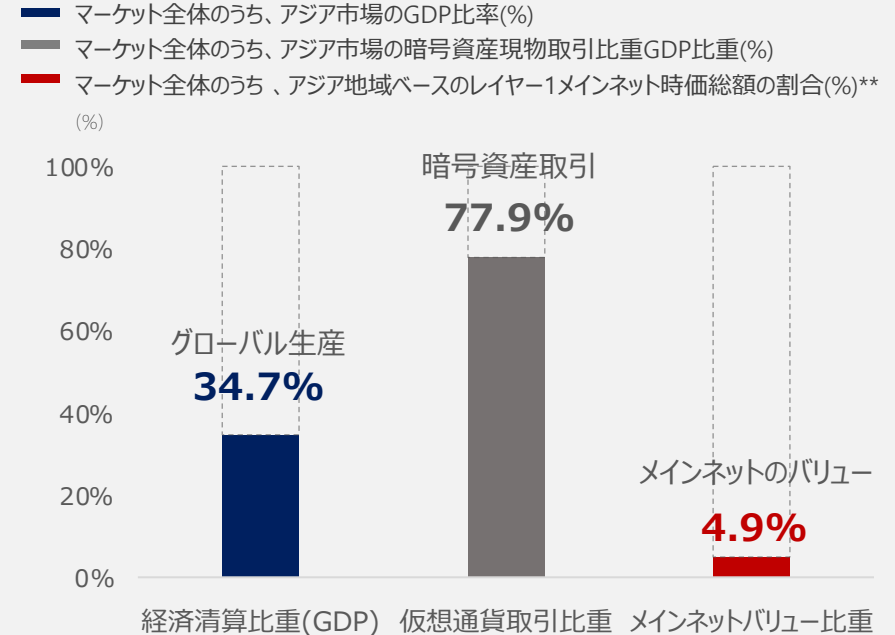
デジタル大転換期にアジア市場の影響力は非常に高いが、ブロックチェーンの価値は過小評価されています。

グローバル・デジタルWeb3環境の変化



ブロックチェーンベースのデジタルWeb3転換期であり、ETF承認後、本格的な制度圏への参入とAI導入によりデジタル環境の変化がさらに加速される見込み

アジア市場の影響力



アジア市場ではグローバル生産(GDP)の34.7%、暗号資産取引市場の77.9%をリードしているがブロックチェーン価値は4.9%水準で過小評価されている

* 出典 : Coinbase Research, CoinmarketCap, Etherscan

* Source: Trading Economics, The Block, Chainalysis, CoinmarketCap
** レイヤ1メインネット時価総額基準は、アジア地域ベースの汎用レイヤ1プロジェクトの10個 (KLAY、FNSA、MATIC、TRON、NEO、ASTAR、OAS、WEMIX、RON、VET) と全レイヤ1カテゴリプロジェクト (BTCを除く) の時価総額を比較した数値です。(Source : CoinmarketCap)

背景

アジア最大資産メインネット統合で、トップブロックチェーン作成、Web3普及をリード予定です。

Vision

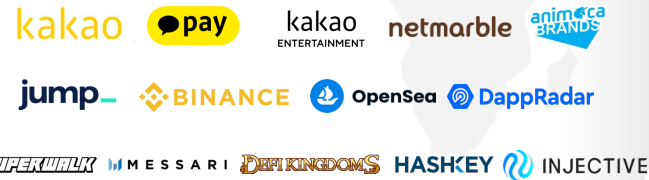
Web3の普及



Initiated by **Kakao***

2018年からKakaoメッセージベースのウォレット、
韓国CBDC事業者への参加、
アジア最大のDe-fi造成など
アジアNo.1インフラ資産を構築

DApp、パートナー、導入ケース ***



...

アジアNo.1ブロックチェーン

アジア最大のウォレット・ユーザー接点

2億5千万人+ ****

アジア最大のDApp & サービス

420個+

アジア最大のWeb3ガバナンス

45個+

アジア最大のWeb3リソース

450人+ *****



Initiated by **LINE***

2018年からLINEメッセージベースのトークン取引、
メッセージNFT連携、
アジア最大のNFTマーケット構築など
アジアNo.1の製品資産を構築

DApp、パートナー、導入ケース ***



...

* クレイTONとフィンシアは、それぞれKakaoの初期ブロックチェーン子会社であるKrust Universe Pte. Ltd.とLINEの初期ブロックチェーン子会社であるLINE Tech Plus Pte. Ltd.がローンチしました。現在はクレイトン、フィンシアともパブリックチェーンとして各ブロックチェーンのガバナンスが意思決定権限を持っています。

** 'LINEメッセージベースのトークン取引'とは日本国内LINEメッセージと連携している暗号資産取引所(LINE BITMAX)でのFNSA取引を指していて、'LINEメッセージNFT連携'とは、日本国内LINEメッセージNFTプロフィールサービスとLINEスタンプNFTサービスを意味します。

*** 本件プロジェクトの機密管理のために各ブロックチェーンのエコシステム参加者及びパートナー企業と事前共有されていません。今後実際のロードマップは変更の可能性があり、エコシステム統合時に各参加者が参加するかどうかは、個々の同意後に確定されます。

**** ウォレットユーザー接点は、2つのメインネットの初期開発会社であるKakaoとLINEのアジア主要国内ユーザー数(MAU)を合計した数値です。

***** 'リソース'とは、各メインネット財団のリソースと、両方のメインネットの初期開発会社であるKakaoとLINEが各メインネットに基づいて事業を推進するWeb3関係者のリソースを推算した数値です。

統合戦略

単純な統合ではなく、圧倒的な競争力と成長を作るための新しいブロックチェーン戦略を実行します。

プロジェクト・ドラゴン



圧倒的な競争力と成長のための 新しいブロックチェーン構築戦略



① 2.5億ウォレット基盤エコシステム

メッセージベースのインフラと
既存のWeb3エコシステムの統合

- メッセージベースのインフラの統合
- 460+のDAppとサービスの統合
- 3,400万人のウォレット・ユーザーの統合
- 41万人+のアジア・コミュニティの統合

② バーン中心の強力なトークノミクス

発行量23.6%のトークン・バーンと
3-Layer焼却モデルの構築

- 統合トークン発行量23.6%焼却及
び未流通量100%永久除去
- 統合インフレの縮小
- 3-Layer焼却(バーン)モデルの開発

③ 新しいネットワークと技術の互換

イーサリアム/コスモスベース
統合ネットワーク環境の提供

- EVM/CosmWasmの累積10年
の技術資産とリソースの統合
- EVMとCosmWasmと互換できる
新しい統合メインネットを提供

④ 新しいガバナンスと分散化

アジア最大のガバナンス構築と
デリゲート基盤の拡張

- 45社+のエンタープライズベースの
アジア最大のガバナンス構築
- ガバナンスの拡大とコミュニティ委任の
強化による分散性の拡張

新しいエコシステム

メッセージベースのインフラと既存のエコシステムを統合し、アジア最大規模のWeb3エコシステムを構築します。

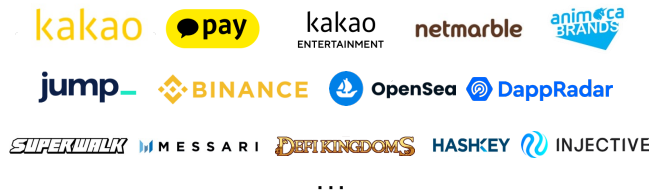


カカオベースのインフラ*

- Kakao連携ウォレットおよびIDベースのFT/NFT転送機能
- KakaoベースのNFTドロップと取引機能
- NFT認証ベースのオープンチャット入場及び使用インフラ

DApp、パートナー、導入ケース

More than **260+** cases **



ウォレット&コミュニティ

ウォレット **29,000,000+** | コミュニティ **240,000+**

統合エコシステム構築



PROJECT DRAGON

ガバナンス承認後の新規ブランド構築



LINE基盤のインフラ*

- LINE連携ウォレット及びメッセージプロフィールNFT機能
- LINE Pay基盤のNFTオンランプとFT加盟店決済
- LINEスタンプ連携限定版Stampの発行と取引機能

DApp、パートナー、ユースケース

More than **200+** cases **



ウォレット&コミュニティ

ウォレット **5,600,000+** | コミュニティ **170,000+**

- クレイ튼及びフィンシア・メインネットをベースに存在していた全てのインフラ、プロダクト、ユーザー、コミュニティを統合ブロックチェーンメインネットのエコシステムに統合します。
- 統合メインネットは、既存のクレイ튼とフィンシアがメッセージベースで駆動していたすべてのWeb3インフラと機能を継承し、アジア2.5億人規模の潜在的なウォレット・ユーザーとの接点を確保します。
- 460個以上のDApp、パートナー、ガバナンスと、3,400万以上のウォレットユーザーおよびWeb3コミュニティも統合され、De-fi、NFT、RWA、Gaming、Paymentなどの主要カテゴリー別資産も統合されます。エコシステム統合は、1) トークン統合、2) ガバナンス統合、3) ネットワーク統合を進めながら、トークン価値に最も効果的でコスパの高い方法で段階的に進めます。

* Kakao および LINE基盤のインフラは、クレイ튼とフィンシアベースの各メッセージ事業が特定の国で提供しているサービスであり、各財団が運営する事業やサービスを意味していることはありません。

**プロジェクトの機密管理のために両財団の必要最小人数のみ参加する形で上位戦略を設計して、各ブロックチェーンのエコシステム参加者及びパートナー企業と事前共有されていません。今後実際のロードマップは変更の可能性があり、エコシステム統合時に各参加者が参加するかどうかは、個々の同意後に確定されます。

New Tokenomics - ① 統合トークンのクレーム

クレイトンとフィンシア保有者は、今後、新規統合トークン(PDT、仮称)を請求することができます。

統合トークン発行



スワップ比率

1 KLAY = 1 PDT



PDT

PROJECT
DRAGON TOKEN

ガバナンス承認後の新規ブランド構築



スワップ比率

1 FNSA ≈ 148 PDT

1FNSA = 148.079656 KLAY

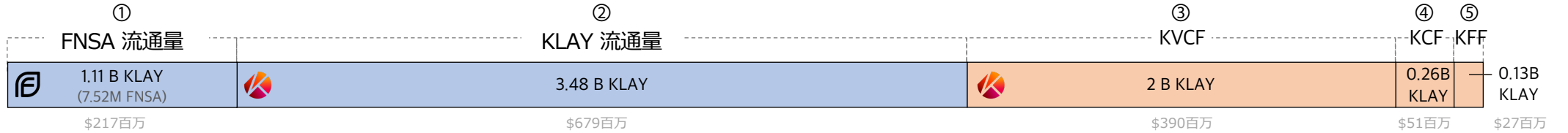
- 2024年第2四半期(トークン統合ターゲット時点)以前にクレイとフィンシアを保有しているすべての企業または個人は、今後、新規統合トークン(PDT、仮称)を請求できるようになります。
- 統合トークンの初期価値と流動性に有利なように、1) トークン当たりの価格参入障壁が低く、2) EVMベースのKLAY基準(1KLAY=1PDT)でスワップを行います。
- 統合トークン交換価格基準は、プロポーザル提出日(2024年1月16日、UTC)前の14日間(1月2日-1月15日、UTC)の各トークンの平均為替レートに基づいて算出されました。

トークン	平均市場価格 (米ドル)	為替レート	期間	データソース
FNSA	USD 28.8607	1FNSA = 148.079656 KLAY	24.01.02(UTC)~24.01.15(UTC)	CoinGecko Data
KLAY	USD 0.1949	1KLAY = 0.006753 FNSA	24.01.02(UTC)~24.01.15(UTC)	CoinGecko Data

- 統合トークンを請求時の適用為替レートは小数点以下6桁(1 FNSA = 148.079656 PDT)まで反映され、支給されるトークン数量が決定されます。
- 1) 取引所内の保有者は、取引所別のスワップ支援政策により一括転換が行われる予定であり、2) 個人ウォレット保有者は、統合財団が支援する「統合トークンスワップサービス(仮称)」を通じて保有者が直接スワップできるようにする計画です。
- 統合トークンスワップ開始スケジュールは2024年第2四半期をターゲットに進行する予定であり、今後の詳細スケジュールとトークン別スワップ進行方式について改めてご案内する予定です。

New Tokenomics - ②新規発行ポリシー

全発行量の23.6%(\$321 百万規模)を焼却し、未流通量を100%除去します。



[発行量の構成]

* 2024.01.16 UTC基準

	数量 (KLAY換算基準)	比率 (総発行量比, %)
総発行量(SUM)	6,994,296,974	100%
総流通量(SUM)	4,595,240,979	65.7%
① FNSA流通量	1,112,983,572	15.9%
② KLAY 流通量	3,482,257,407	49.8%
未流通量(SUM)	2,399,055,995	34.3%
③ KVCF (リザーブ)	2,000,000,000	28.6%
④ KCF	260,514,566	3.7%
⑤ KFF	138,541,429	2.0%

[既存管理体制]

* 1 FNSA = 148.079656 KLAY

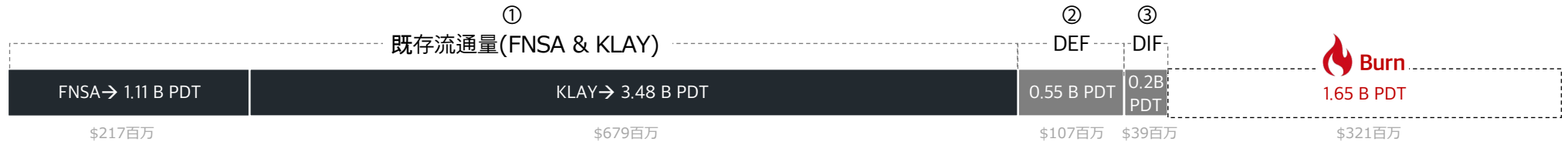
- 総発行量: **6.99B KLAY** (FNSA > KLAY換算基準)
 - 流通量: **4.68B KLAY**
 - 未流通量(KVCF, KCF, KFF) : **2.4B KLAY**
- 流通量に対する未流通量の割合: **52.21%**。
- リザーブと未流通量の割合が大きいため、トークミクスの不確実性が存在。



既存
発行量



PDT
発行量



[発行量の構成]

* 2024.01.16 UTC基準

	数量 (PDT換算基準)	比率 (総発行量比, %)
総発行量(SUM)	5,345,240,979	100%
総流通量(SUM)	5,345,240,979	100%
① 既存流通量	4,595,240,979	86.0%
② DEF(Ecosystem Fund)	550,000,000	10.3%
③ DIF(Infra Fund)	200,000,000	3.7%

* 2024.01.16 UTC基準発行量予測値であり、今後の統合直前のスナップショットにより一部変動される場合があります。

[新管理体制]

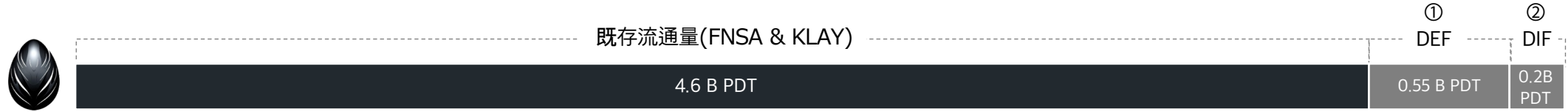
* 1 FNSA = 148.079656 PDT, 1KLAY = 1 PDT

- 総発行量(=流通量): **5.35 PDT (23.6% トークン・バーン)**
 - エコシステム/インフラファンド(DEF, DIF): **0.75B PDT (68.7%縮小)***。
- 流通量に対する未流通量の割合: **0% (100%除去)**
- リザーブと未流通量を排除し、ETH、BNBと同じ「発行量 = 流通量」を実現。
- 今後の流通量はインフレと新規バーンモデルによってのみ変動。インフラファンドの流通量の編入が流動化を意味するものではなく、ガバナンス承認の範囲内で透明に運営する予定です。

* エコシステム/インフラファンド(DEF, DIF)を既存の未流通量(KVCF, KCF, KFF)と比較した数値です。

New Tokenomics - ②新規発行ポリシー

縮小されたファンド(DEF、DIF)は、強力な統合ガバナンスとエコシステム構築のために透明的に使用されます。



① DEF(Dragon Ecosystem Fund、仮称) (5.5億PDT) - 流通量の10.3%。

- 統合メインネットのエコシステムとコミュニティ構築や成長のためのファンドです。今後、統合財団でトークン価値貢献を基準とした新しいファンド戦略を策定する予定です。
- 統合ガバナンスから事前承認を取得してから予算計画と資金執行が可能であり、すべての執行内訳は新しい透明性プロトコル(新規開示及び報告体制)に合わせて公開されます。
- DEF全体のうち3.5億個のPDTは、統合財団がLINEのWeb3企業であるLINE NEXTの初期ガバナンスに委任し、5年かけてLINE NEXTに分割支給します。
- LINE NEXTは、1) 既存に運営中またはローンチ予定の200以上の内外のWeb3プロダクトを統合メインネットに移行し、2) 委任期間中に統合メインネット基盤で独占的なWeb3プロダクト事業を行うことに対する報酬として5年間に渡って移管されます。これまでフィンシア・リザーブ発行を行わなかったLINE NEXTは、その委任量で統合メインネット初期から安定的にガバナンスに参加し、統合メインネットに貢献することができます。LINE NEXTの委任期間中に発生するすべてのノード・ステーキングの収益は、コミュニティに還元されます。

[LINE NEXT委任に伴う新規ガバナンス予想案]

	Kakao Affiliates	LINE Affiliates	Netmarble Affiliates	Others
ステーキング (PDT)	573M	350M*	271M	1.19B
ガバナンス比重 (%)	24.0%	14.7%	11.4%	50.0%

[5年間のガバナンス委任及び移管計画]

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
委任数量(PDT)	最初の350M PDT委任の後、5年間に分けて移管				
移管数量(PDT)	115M	115M	40 M	40 M	40 M

② DIF(Dragon Infrastructure Fund、仮称) (2億PDT) - 流通量の3.7%。

- 統合メインネット、基本インフラ、統合財団運営、マーケティングなどのファンドです。インフラファンドは、統合財団の理事会と内部統制で予算策定、資金執行を行います。
- 統合財団は新しい透明性プロトコル(開示およびレポート体制)を構築し、生態系構築とファンド使用に関する内訳を新しいガバナンスとコミュニティに透明に公開する計画です。

* ユーザーの委任量とLINE系列会社の既存の預け入れ量は除外された数値です。

New Tokenomics - ③新しいインフレと焼却モデル

新しい焼却(バーン)中心のトークノミクスを実現します。

初期インフレ設定



初期インフレ率：5.2%

- PDTの初期インフレ率は、既存のクレイトンとフィンシアの経済とインフレ率を統合しつつ、統合後の財源活用が重複する部分を考慮し、割引率を適用して下方修正しました。

$$\text{初期インフレ率} = \frac{\{A * B\} * C + \{D * E\} * F}{G}$$

 A: 統合トークン換算基準クレイトン既存流通量 (3.48B) E: フィンシア既存インフレ率(15%)
 B: クレイトン既存インフレ率(5.7%) F: 重複費用を考慮したインフレ割引率(0.7)
 C: 重複費用を考慮したインフレ割引率(0.8) G: 統合トークン流通量 (5.35B)
 D: 統合トークン換算基準フィンシア既存流通量 (0.11B)

- PDTインフレはそれぞれ以下の比率で英システムに流通されます。

インフレ分配	比率
① バリデーター及びコミュニティ *	50%
② DEF(ドラゴンエコシステムファンド)	25%
③ DIF(ドラゴンインフラストラクチャファンド)	25%

3-Layerバーンモデルの構築



3-Layer トークン・バーンモデル **

- 今後、レイヤー1は、大衆的なネットワーク需要創出能力とベーストークンバーン政策の強さによって成長率が決定されると見込みます。
- PDTは、実需ベースのレイヤー1焼却モデルをリードしていくことを目指し、3つのレイヤーで新しいトークン・バーンモデルを開発します。

焼却方式	政策の方向性
① ガス代ベースのトークン・バーン (Burn thru Transaction fee)	統合メインネットのガス代使用量やユーザーのTipに応じてPDTをトークン・バーンします。EVM/Cosmosの互換性をベースにバーン量を増やすことを目指します。
②バリデーターベースのトークン・バーン (Burn thru Maximal Extractable Value)	バリデータ検証過程で発生する付加価値の一部をトークン・バーンするモデルを開発します。ネットワーク活性度に比例してバーン量が大きくなるように設計します。
③ サービス成長ベースのトークン・バーン (Burn thru Revenue Model)	開発会社に提供する追加権限ベースの新規収益源または戦略的パートナーシップベースのRevenue Share財源の一部をトークン・バーンするモデルを開発します。

*統合メインネットで提供されるステーキングサービスは、財団のライセンスを基に提供されません。
 **バーンモデルは、将来の規制検討および統合ガバナンスの承認を受けて、最終的に決定される予定です。

新しいネットワーク

イーサリアムとコスモスを網羅する新しい統合ネットワークを構築します。



EVM対応

5年以上の技術力と開発チーム



統合ネットワーク構築



PROJECT
DRAGON

ガバナンス承認後の新規ブランド構築



CosmWasm対応

5年以上の技術力と開発チーム



- クレイトンとフィンシアは、2018年からそれぞれブロックチェーンの代表的な技術スタックであるイーサリアム技術(EVM)とコスモス技術(CosmWasm)をベースにレイヤー1の開発と運営を行っており、各分野でアジア最高レベルの技術力とリソースを持っています。
- 統合メインネットは、両メインネットの技術と資産に基づいてEVMとCosmWasmの両方に互換性のある新しいネットワーク環境を構築することを目指しています。これにより、新規DAppのオンボーディングを加速し、既存のEVMとCosmWasmのエコシステムにいる開発者とユーザーが統合メインネットベースで価値を移転できるようにします。
- 新しい統合ネットワークの構築は、迅速なベーストークンエコノミー統合と安定したエコシステム統合を考慮し、段階を分けて進行します。

Phase1 - (EVM) ベースコイン/ガバナンスの統合

価格参入障壁が低く、流動性に有利なEVMベースでベーストークン(PDT)とガバナンスを統合して統合ネットワークの1次構築

Phase2 - (EVM+CosmWasm) 資産/機能の統合

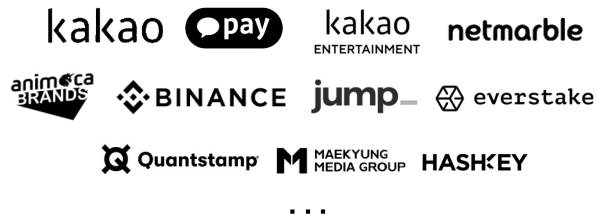
コスモスベースの技術資産と機能を統合してEVM/CosmWasmに対応した統合ネットワーク環境を完成させる

新しいガバナンス

アジア最大のガバナンスを実現し、ユーザー委任の強化とガバナンスの拡大で分散性を拡張します。

klaytn ガバナンス

カカオ関連会社を含む
30社以上のグローバル企業*



統合ガバナンスの構築



PROJECT
DRAGON

ガバナンス承認後の新規ブランド構築

Finschia ガバナンス

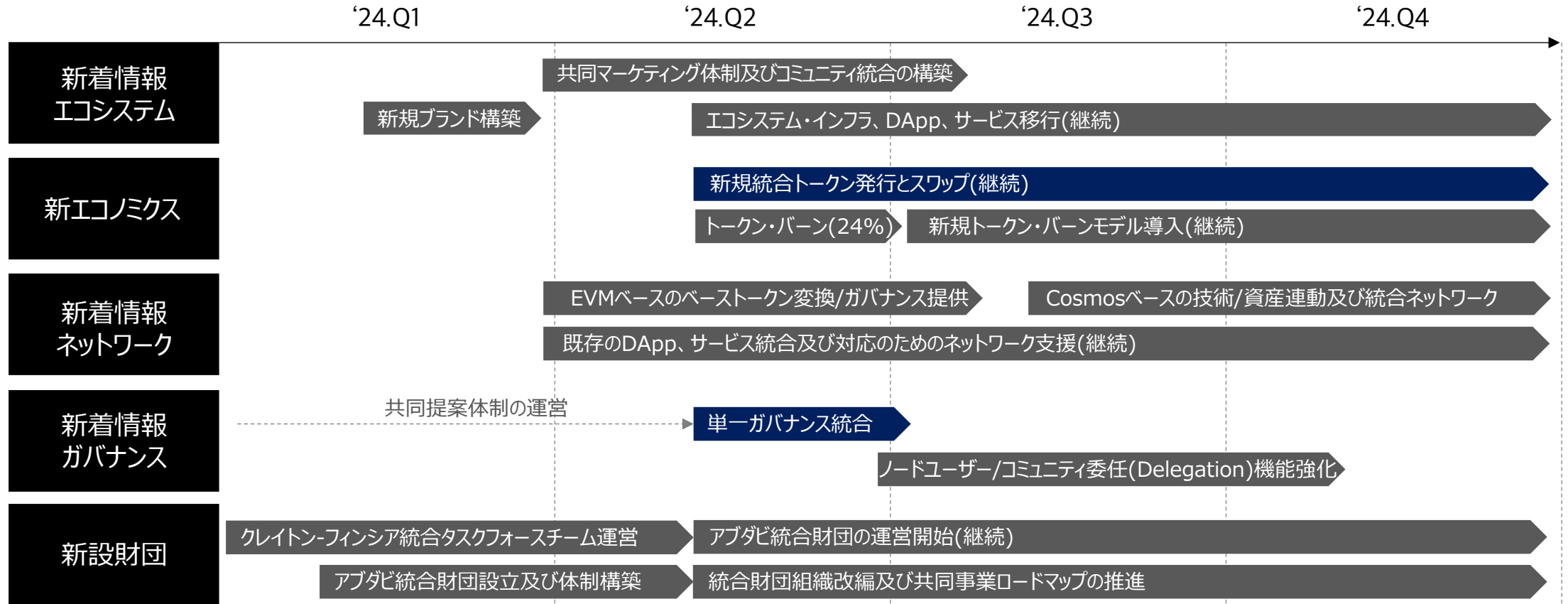
LINE関連会社を含む
15社以上のグローバル企業*



- ・ クレイトン・ガバナンスとフィンシア・ガバナンスは一つの単一のガバナンス(PoS)に統合されます。統合ガバナンスでは、ユーザーとコミュニティの委任(Delegation)機能を強化し、ガバナンス参加社を最大100社まで拡大し、新しい脱中央性を確保し、アジア最大のデジタルガバナンスを構築することを目指します。
- ・ 既存のクレイトンとフィンシア・ガバナンスに参加している企業は、今後の新規ガバナンスに参加する機会がえられます。各企業は、既存のクレイとフィンシアの保有量と固定された転換比率にPDTを分配され、PDT量に比例して新しい投票力を持つこととなります。既存のガバナンス参加企業のうち、両メインネット間の既存の政策の違いにより、統合ガバナンスに必要な最小PDT預託数量が不足する場合、統合財団は当該企業の価値貢献度を判断し、不足分を委任、または貸与することができます。
- ・ PDT発行及びガバナンス統合前、クレイトンとフィンシアは従来のように分離されたガバナンスを一時的に運営することとなります。この移行期間には、統合メインネットに影響を与える主要議案について、両メインネットのガバナンスで全て通過しなければならない意思決定体系が一時的に運営されます。

ロードマップ

第2四半期内に新規トークンスワップ開始とガバナンス統合を完了します。



- 本プロジェクトは、徹底した内部情報統制の必要性和ブロックチェーン公開投票承認手続きの特殊性を考慮し、両財団の最小人数で上位戦略を策定しました。提案承認後、公式的な統合タスクフォースチームが新設され、分科別計画、実行方式、ロードマップを確定した後、再びコミュニティに告知する計画です。これにより、詳細計画と日程が変動する可能性があります。
- 各財団の統合メインネットエコシステム拡張のための主要事業およびマーケティング業務は、統合コストを増大させない範囲で、統合ロードマップとは関係なく並行して行われます。

事業への取り組み2024

統合が承認されれば、両財団は共同事業体制を作り、2024年に新事業を一緒に推進します。

機関向けのインフラ構築

- アジア主要国別の統合トークン決済システムを構築
- 統合トークン(PDT)のアジア流通チャネル拡大

大規模なDeFiインフラの再構築

- 統合メインネットのための新しいDeFiの再構築
- RWA資産連携サービスの拡大

ネイティブステーブルコイン ローンチ

- 統合メインネット基軸ステーブルコインローンチ
- ステーブルコインベースのサービス拡大

アジアコミュニティ ブーストアップ

- アジア各国別開発会社/ユーザーコミュニティの再構築
- 国別ガバナンス及びエコパートナーの新規発掘

AI DAppアプリカテゴリーの発掘

- AIベースのコンテンツ/アバター/ゲームDAppの発掘
- AI DAppカテゴリー新設とオンボーディング活性化

Web2アイテムの大規模なオンチェーン化

- Web2アイテム、メンバーシップ、チケット市場との連携
- 大規模トークン化・普及事例の発掘

アジアSSS級ゲーム会社のオンボーディング

- ブラウンレンズIPベースの相互運用ゲーム協力
- 日本のトップクラスのゲーム会社IPベースのWeb3協力

グローバルIPプロジェクトのオンボーディング

- グローバルIPのWeb3プロジェクトのオンボーディング
- Web2企業向けのオンボードインフラストラクチャの強化

PROJECT DRAGON

BUSINESS INITIATIVES

2024

IMPORTANT NOTICE

- 本資料は、クレイトン財団（Klaytn Foundation）とフィンシア財団（Finschia Foundation）がガバナンスプロポーザルのために共同で作成しました。
- 資料の計画は、クレイトン・ガバナンス・カウンシル（Klaytn Governance Council）とフィンシア・ガバナンス（Finschia Governance）が、本プロジェクトのプロポーザル（KGP-25、FGP-23）に対するオンチェーン投票を経て承認された後に確定される計画です。詳しくは各プロポーザルをご覧ください。
- 資料の計画は長期計画の暫定案であり、具体的な内容は将来の市場環境、規制環境、各ブロックチェーンの事情によって変更される可能性があります。
- 資料の計画は、まだADGM（Abu Dhabi Global Market）やその他規制機関の検討前です。プロジェクトの情報は完成形になっていない現状のもので、規制の変更、当局の要望や指示、進化する常業的な要求事項または市場条件に限らない多様な要因で変更される可能性があります。
- プロジェクトは、機密管理のために両財団の必要最小人数のみ参加する形で上位戦略を設計していて、各ブロックチェーンのエコシステム参加者およびパートナー企業と事前共有されていません。従って、今後実際の具体的なロードマップには変更の可能性があります、エコシステム統合時に各参加者が参加するかどうかは、個々の同意の後に確定されます。
- 資料の計画は、フィンシア財団とクレイトン財団が各ブロックチェーンと財団の現状について合理的に把握したという事実に基づいて確立されています。今後、各財団が把握できなかった事実や前提条件の重大な変動があると判断された場合、計画が変更されることがあります。本件の計画前に発生した各ブロックチェーンの過去の運営内容が本計画または実行結果に重大な影響を及ぼす場合については、各ブロックチェーンが責任を負います。
- フィンシア財団とクレイトン財団は、証券を含む既存の資本市場の商品を扱いません。この資料の計画は、クレイ（KLAY）およびフィンシア（FNSA）の暗号資産の法的性質または権利の変更を意味することではありません。各暗号資産の完全免責事項については、各ホワイトペーパーを参照してください。
- 当社は、いかなる目的においても本資料に含まれる情報の完全性、正確性、信頼性、適合性、または利用可能性について、明示的または黙示的な表明または保証を行いません。
- 本資料のオリジナル原文は英語版で、他の言語はあくまでも参考のために作成されています。正確な内容を確認するには、英語の資料を御確認ください。



KLAYTN PROPOSAL [KGP-25] >



FINSCHIA PROPOSAL [FGP-23] >

[Klaytn Official Site >](#) | [Klaytn Whitepaper >](#)

[Finschia Official Site >](#) | [Finschia Whitepaper >](#)

END OF DOCUMENT



[Klaytn Official Site >](#) | [Klaytn Whitepaper >](#) | [Finschia Official Site >](#) | [Finschia Whitepaper >](#)